

31. 広島県熊野町における茅葺き民家の保存実態に関する研究

0910920033 大本浩
指導教員 市川尚紀 准教授

茅葺き民家 茅葺き屋根 伝統民家

1. 背景と目的

茅葺き民家の起源は縄文時代までさかのぼる。それまで洞窟や岩陰に住んでいた人々が定住居に住むようになる。そのときに屋根の材料として最初に使用されたのが茅である。茅葺き屋根は住居の原点といってもよい。世界各地、主にヨーロッパを中心に数々の茅葺き屋根が存在し、特にオランダやドイツ、デンマークなどの北欧の方ではブームとなっている。しかし近年、日本では茅葺き民家は減少の一途をたどり、現在県内には、人が暮らす茅葺き民家はわずかである。

本研究では、広島県熊野町における茅葺き民家の保存実態を把握し、茅葺き職人の減少、葺き替えの費用など茅葺き民家の減少理由を把握する。また、論文¹(平成 22 年度)との比較を行い、地域性の相違点を明確にする。



写真1 茅葺き民家 (No.27)

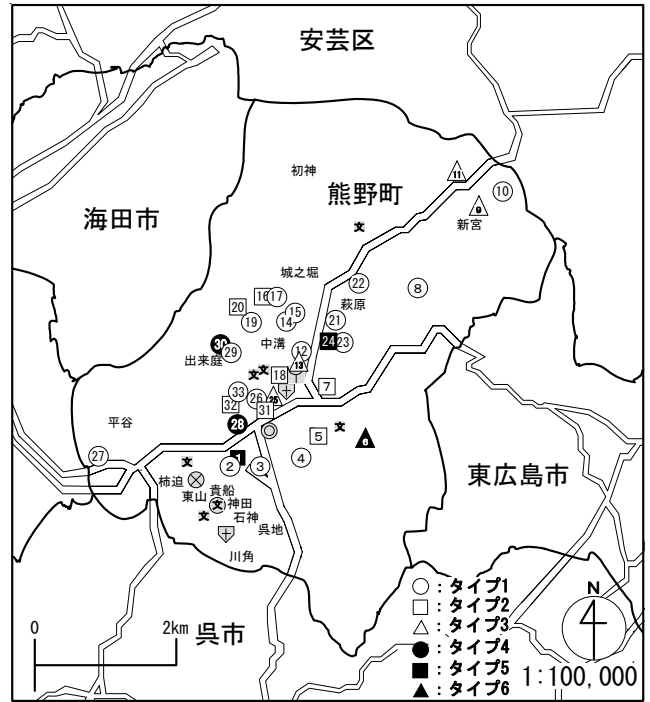


図1 現存民家の分布図

2. 研究の手順

(1) 調査対象と調査方法: 西日本茅葺き民家保存研究会の協力のもと、平成 24 年時点で確認されている、広島県熊野町の茅葺き民家 33 戸を対象に、フィールド調査を行う。さらに、空き家を除いた民家を対象に、ヒヤリング調査を行う。

(2) フィールド調査: フィールド調査の内容として「民家の写真」を撮影し、「屋根の状態」「屋根形式」「使用用途」「敷地内建物の有無」「その他備考」を記録する。そして、現存する民家の分布図を作成する。

(3) ヒヤリング調査: 「良いところ、悪いところ」「屋根を葺き替えている職人」「葺き替え費用」「葺き替えて何年か」「屋根の被覆を考えているか」などについてヒヤリングを行う。

3. フィールド調査結果

現存している茅葺き民家 33 戸のうち、屋根の状態が「良」の民家が 28 戸、「悪」の民家が 5 戸であった。また、茅葺き民家は広島県熊野町の中心部に密集していた(図 1)。

3. 1 茅葺き民家の保存実態

屋根の状態が「良」の民家 28 戸のうち、使用用途が主屋の民家が 17 戸である。屋根の状態が「悪」の民家 5 戸のうち、主屋の民家が 2 戸であった。

屋根の状態が「良」の民家で、空き家 7/28 戸、屋根の状態が「悪」の民家で、空き家が 2/5 戸であった。

「その他」の民家のうち、2 戸は今後、解体されることが決まっている。つまり、7+5+2=14/33 戸が近い将来なくなるかもしれない。

表 1 フィールド調査結果

	屋根の状態	使用用途	件数	箱棟	入母屋	切妻	敷地内に建物がある民家
○ タイプ1	良	主屋	17	7	10	0	9
□ タイプ2		空き家	7	4	3	0	3
△ タイプ3		その他	4	2	2	0	3
● タイプ4	悪	主屋	2	1	1	0	0
■ タイプ5		空き家	2	1	1	0	0
▲ タイプ6		その他	1	0	1	0	1

4. ヒヤリング調査結果

現存している茅葺き民家 33 戸のうち、空き家を除いた 24 戸を訪問し、その内 20 戸の民家にヒヤリングすることができた。ヒヤリング内容とその回答を、表 2 に示す。

表 2 ヒヤリング結果

質問	回答	民家No	意見
1 茅葺き屋根の良いところは？	夏涼しく、冬暖かい 18/20(人)	2,3,6,8,10,11,12,13,14,15,17,21,22,23,25,26,29,30	夏は他のところに行きたくない
	券囲気が好き 1/20(人)	27	
	分からない 1/20(人)	4	
2 悪いところは？	特になし 10/20(人)	3,4,6,10,11,12,14,21,22,26	周りと景観が違うので、少し違和感がある
	維持が大変 5/20(人)	8,13,15,17,29	
	雨漏りなどの天候被害 1/20(人)	2	
	虫が落ちてくる 2/20(人)	25,30	
3 屋根を葺いてもらっている職人は誰か？	すきま風が吹く 2/20(人)	27	職人がいなくて困っている
	熊野町 沢木端吾 11/20(人)	4,10,11,14,15,17,22,23,26,27,29	
	熊野町 溝口剛三 6/20(人)	6,8,13,21,25,30	
	志和堀 石井元春 1/20(人)	12	
4 一回の葺き替えの費用はどれくらいか？	分からない 2/20(人)	2,3	職人さんから茅をもらったので、安く済む ・茅場が近くになくて、茅を持って帰るだけ金がかかる
	約50万円 1/20(戸)	13	
	約150万円～200万円 4/20(戸)	2,4,25,29	
	約300万円 3/20(戸)	6,8,27	
	約500万円 2/20(戸)	11,26	
5 築何年？	約100年 10/20(戸)	4,13,14,15,17,21,22,23,26,29	すきま風などが入る
	約150年 7/20(戸)	3,6,8,10,11,12,25	
	約250年 1/20(戸)	27	
	分からない 2/20(戸)	2,30	
6 葺き替えて何年？	約5年前 4/20(戸)	2,11,12,15	職人さんに葺き替えを頼んでいるが、連絡が帰ってこない
	約10年前 8/20(戸)	4,10,13,14,17,23,27,29	
	約20年前 4/20(戸)	3,22,25,26	
	30年以上前 2/20(戸)	6,8	
	分からない 2/20(戸)	21,30	
7 今後被覆したいと考えているか？	考えている 2/20(人)	2,26	できるかぎり、残していきたいと考えている
	考えていない 18/20(人)	3,4,6,8,10,11,12,13,14,15,17,21,22,23,25,27,29,30	
8 なぜ被覆したいと考えているか？	維持管理が大変 1/2(人)	2	残したい気持ちはあるが、なかなか難しい
	職人さんがいない 1/2(人)	26	

4. 1 葺き替えの費用

今回ヒヤリングした民家で葺き替えの費用は費用約 50 万円～500 万円であった。茅葺き屋根の葺き替えは 1 度に 1、2 面に分けてかかる費用である。民家ごとに葺き替えた時期は異なり、30 年前では約 200 万円、20 年前では約 300 万円、5 年前では約 500 万円とその時代の物価や屋根の面積等で変わってくる。

被覆を考えている回答の中に、「維持が大変」という意見があるが、一般的な屋根とどのくらい違うのかを比べてみる。某リフォーム会社で、築 20 年で屋根面積 138.5 m² の古くなった瓦屋根を葺き替える費用が約 200 万円といった工事事例がある。茅葺き屋根の大まかな工事費見積りとして「屋根坪数×7＝工事費（万円）」というものがあ、同じ面積で計算すると、

$$138.5 \div 3.3 = 42 \text{ (坪)} \quad 42 \times 7 = 294 \text{ (万円)}$$

となり、茅葺き屋根の葺き替えは約 300 万円近くかかるということになる。これから、屋根のメンテナンス費用は茅葺き屋根の方がより多くかかることがわかる。

4. 2 今後被覆をするか・しないか

今後屋根の被覆をしたいと考えているか」という質問に対して、屋根の被覆をしたいと考えている民家は 2 人と少なく、「維持が大変でもう葺き替え続けるのは難しい」や「職人さんがいない」という意見が聞かれた。

4. 3 広島県熊野町のまとめ

ヒヤリングを行った 20 戸のうち、「被覆を考えている」茅葺き民家が 10%であり、ほとんどの茅葺き民家が今後も維持していくという回答が得られたことにより、今後広島県熊野町での茅葺き民家の消滅スピードが加速していくことは考えにくい。

5. 熊野町と東広島市の比較

広島県熊野町と東広島市の茅葺き民家のフィールド調査、ヒヤリング調査の結果を比較する。ただし、東広島市の屋根を被覆している民家のデータは比較対象外とする。

5. 1 茅葺き民家の戸数密度

広島県熊野町の現存する茅葺き民家の軒数 33 戸に対して、東広島市は 48 戸である。東広島市は西条、八本松、志和、高屋、黒瀬、福富、豊栄、河内、安芸津の町で形成される市である。その中でも一番茅葺き民家が多かった町は志和である。広島県熊野町は総面積 33.62k m²、茅葺き民家の軒数 33 戸で密度は 0.98 戸/k m²に対して、志和は総面積 66.49k m²、茅葺き民家 14 戸で密度が 0.21 戸/k m²である。このことから、広島県熊野町は、より狭い地域に密集して茅葺き民家が現存していることがわかる。

5. 2 葺き替えコスト

茅葺き屋根の悪いところについて、広島県熊野町は「特になし」という回答が 50%と一番多いのに対して、東広島市は「維持が大変」という回答が 69%と一番多い。広島県熊野町の「維持が大変」という回答は 25%である。その要因について、葺き替えるコストの比較を行った際、広島県熊野町の場合、分からないと回答した茅葺き民家を除いた件数 10 戸に対して、屋根の葺き替え費用 300 万円以下が 8 戸で、割合にして 80%である。東広島市の場合、分からないと回答した茅葺き民家を除いた件数 14 戸に対して、屋根の葺き替え費用 300 万円以下が 9 戸で割合にして 64%である。このことにより、東広島市の方が広島県熊野町よりも屋根を葺き替える費用がかかっている茅葺き民家が多いことがわかる。よって、東広島市の方が「維持が大変」という割合が高いと考えられる。

6. 結論

東広島市の方が広島県熊野町より「茅葺き屋根の悪いところ」に関する回答に対し、「維持が大変」という回答がより多く目立った。このことにより、広島県熊野町の方が東広島市よりも今後も茅葺き民家を守られていく可能性が高い。

茅葺き民家だけではなく、茅葺き民家が多く現存する地域の一般民家や被覆した茅葺き民家のヒヤリングも行うことが必要である。

参考文献：1)坂東孝：東広島市における茅葺き民家の保存・消滅実態とその要因に関する研究，平成 22 年度近畿大学工学部建築学科卒業論文